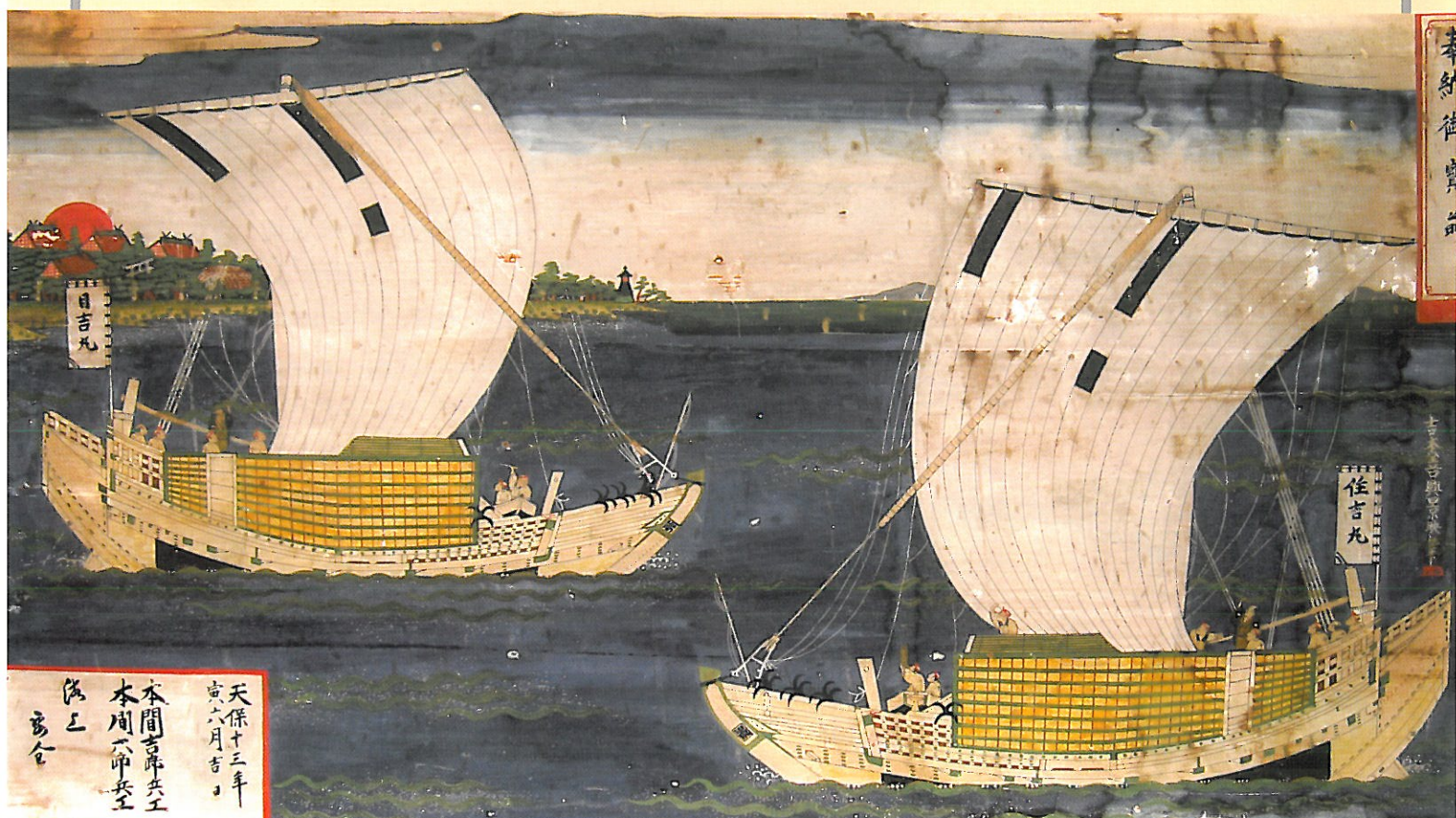


桃崎浜 文化財収蔵庫



日吉丸（左）、住吉丸（右）

（天保13年）国指定重要民俗資料

胎内市は、県下における「船絵馬の宝庫」と言われ、そのうち桃崎浜文化財収蔵庫に所蔵されている船絵馬85枚と2隻の模型和船は、国の重要民俗文化財に指定されています。

胎内市教育委員会

新潟県胎内市新和町2番10号

荒川神社奉納 模型和船

胎内市桃崎浜の荒川神社には、船絵馬の他に、裏日本海運界に活躍した北前船の正確な模型の雨船と日和船とよばれる二隻の和船が奉納されています。

雨船には、明和5年(1768年)戊子10月吉祥日の墨書があり、船大工仙右衛門・久三郎・仙三郎・源三郎・久右衛門・源八・源助・鶴松・伝八・久助・源六の名がみられます。



ひより船 (嘉永3年) 国指定重要民俗資料

船型の全長は356cm、幅93.5cm、高さ43cm、
檣はしらは折れていますが241cmです。

日和船は、嘉永3年(1850年)の墨書名があり、全長348cm、幅78cm、高さ52.5cmで、いずれも地元の荒川湊の廻船問屋三浦関右衛門が奉納したものです。

二隻とも荒川神社祭礼時シャギリ船として用いられています。



あま船 (明和5年) 国指定重要民俗資料

北前船とは

船絵馬に描かれているような帆前船を総称して北前船と呼んでいます。およそ200年の間、海運業の大半は、この北前船によって支えられました。

当時、酒田から江戸まで約45日かかったといえます。

北前船(和船)の航路図



昔栄えた荒川港

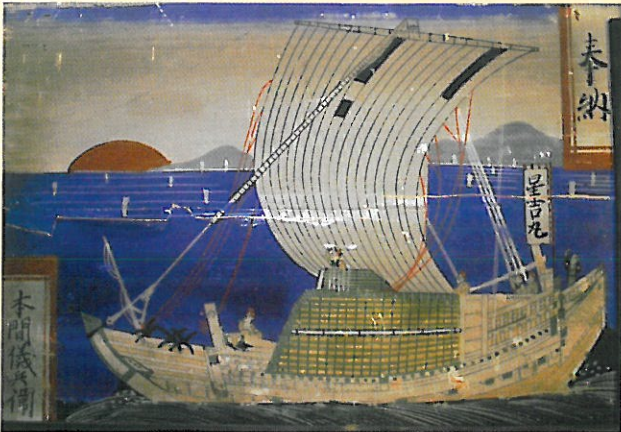
幕末時代の荒川は、水量も豊かで、流れもゆるやかでした。河口には、桃崎港、海老江港、塩谷港があり、これらの港は総称して荒川港と呼ばれていました。

この港は下越沿岸随一の良港として知られ、桃崎港には廻船問屋(海上運送業)が繁盛し、その船は、日本海沿岸諸港に寄港しつつ、南は瀬戸内海、北は北海道方面にまで活躍しました。

桃崎浜文化財収蔵庫の船絵馬

船絵馬に関する理解、関心が深まり、胎内市で船絵馬の調査に着手したのは昭和43年のことです。その結果として、桃崎浜をはじめ、荒井浜、中村浜、山屋、村松浜などの神社から発見された船絵馬の合計は、182枚にも及び、国の文化財、市の文化財として高く評価されています。

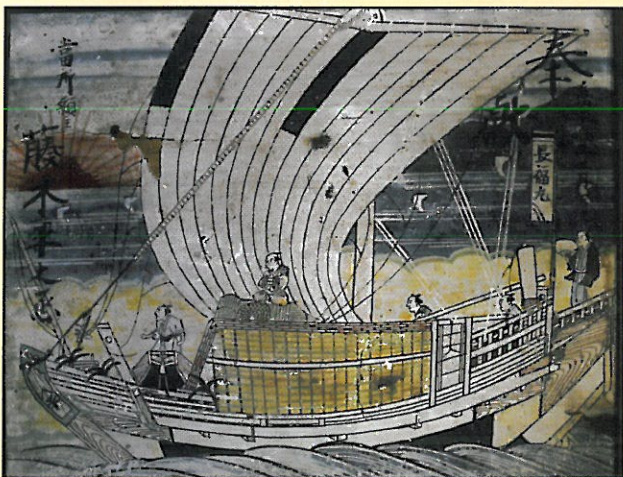
そのうち、86枚が桃崎浜文化財収蔵庫に所蔵されています。



星吉丸 国指定重要民俗資料



神悦丸 (慶応2年) 国指定重要民俗資料



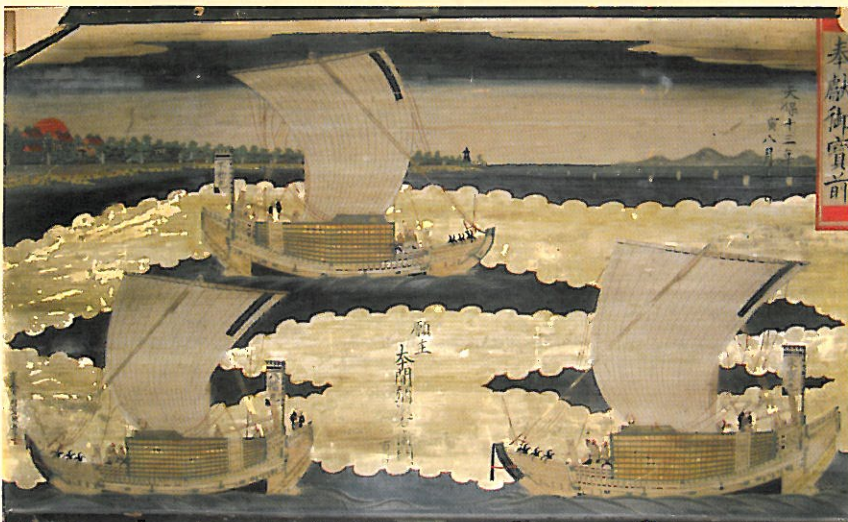
長福丸 (嘉永6年) 国指定重要民俗資料

船絵馬とは

北前船の船主または船頭が、大阪などの有名な絵馬師に自分の船を描かせ、海上安全の祈願や感謝の気持ちを込めて、航海の守護神である神社などに奉納したもので、当時の船の構造、乗組員などが非常に丁寧に描かれ、奉納の時期、奉納者がしるされています。

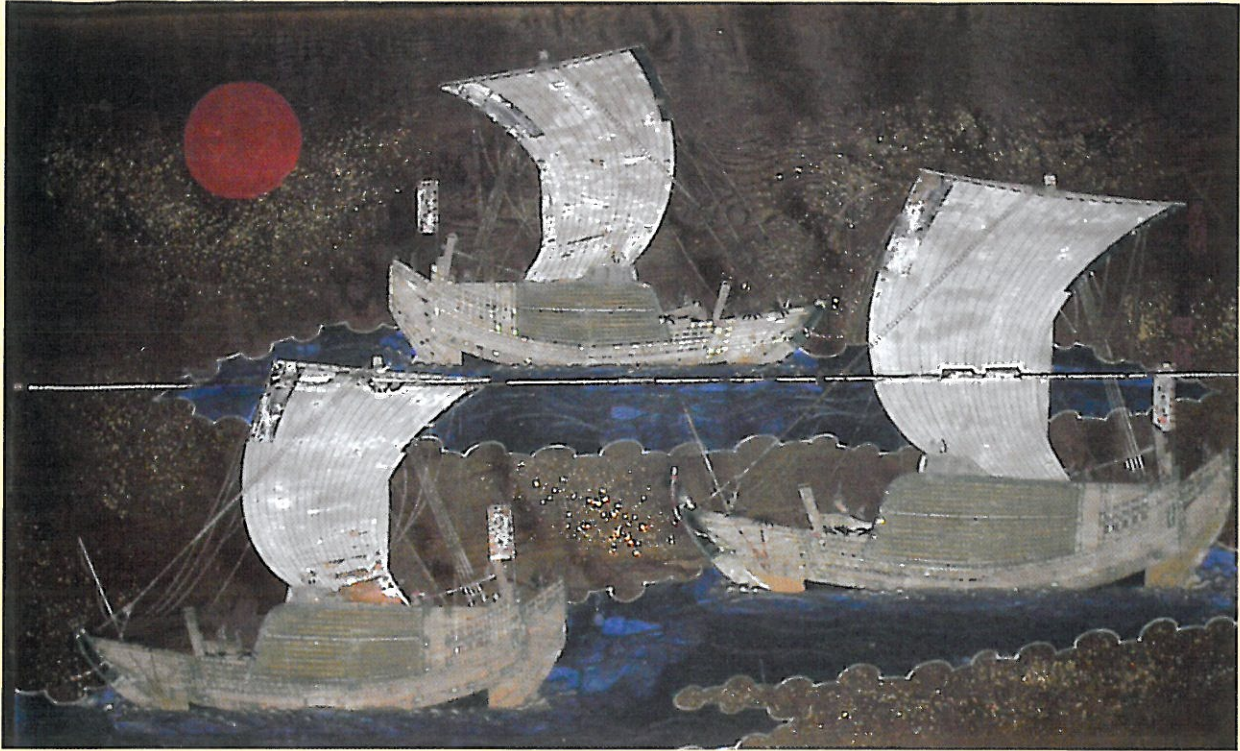
時代によって作風に変化がみられます。

もともと絵馬は、生きた馬を神に奉納する代わりに、馬の絵を奉納したことから、その名称が付けられましたが、やがて馬の絵に限らず奉納絵画のすべてを絵馬と呼ぶようになり、その中で船を描いたものを「船絵馬」と呼びます。



八幡丸(左)、不動丸(中)、永宝丸(右) (天保13年) 国指定重要民俗資料

福市丸・福寿丸・福社丸



福社丸(左)、福寿丸(中)、福市丸(右) 文久元(1861)年 国指定重要民俗資料

桃崎浜文化財収蔵庫所蔵の船絵馬は豪華版揃いの点で注目されていますが、その中でもこの一枚は見応えのあるものです。

櫺版に描きあげた特製品で、著者は当時大阪の絵馬師のトップに立っていた吉本善京です。

三隻の船のバランスのとれた配置、細部の正確な描写、船体の浮かぶ海面のあざやかな群青(ぐんじょう)、金泥・金粉の瑞雲で飾られた画面は、風格の高い作品です。

【収蔵庫の概要】 鉄筋コンクリート造、117㎡の建物の中には、幕末から明治初期の船絵馬86点を収蔵。北前船の模型も展示されています。

【利用のご案内】

● **観覧方法** 収蔵庫の観覧を希望される方は、事前に胎内市教育委員会への連絡が必要になります。
TEL 0254-43-6111

● **入館料**

区分	個人	団体
一般	100円 / 70円	
1) 高校生以下は、無料です。		
2) 団体は、15名以上からとなります。		



桃崎浜 文化財収蔵庫

〒959-2601
新潟県胎内市桃崎浜上相子239番地4

